

ヒトパピローマウイルス感染症

※積極的勧奨中止中

性行為をおこなう女性の50～80%がHPV（ヒトパピローマウイルス）に感染し、うち10%未満が持続感染し、最終的に一部が子宮頸がんになるといわれています。子宮頸がんは、おもにセックスの際に感染するHPVの感染が原因であることがわかっています。HPVはありふれたウイルスで、セックスの経験のある女性の80%が一度はこのウイルスに感染すると考えられています。多くの場合は本人のもつ免疫力によってこのウイルスが排除されますが、リスクの高いタイプのHPVの持続感染を起こすと、がんを引き起こします。近年、20代～30代に急増しているのが特徴です。

ヒトパピローマウイルス感染症については、平成25年6月14日以降積極的な勧奨を中止しています